

柱加工機更新スリット加工機導入

プレセッター等金物工法に対応

万代

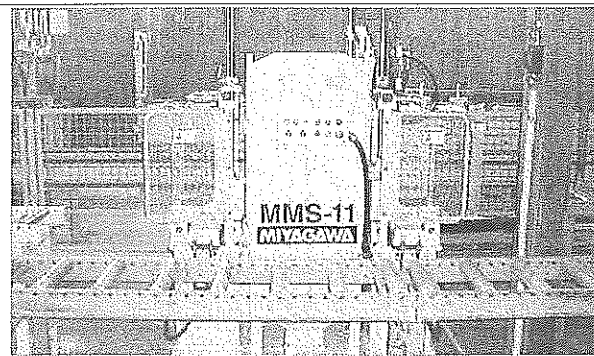
万代(千葉県柏市、遠藤又四郎社長)はさきごろ、同社のプレカット野田工場において柱加工機の更新と、金物工法に対応するためのスリット加工機新設を行った。

柱加工機は、宮川工を金物工法で行う物件のMPS-35を導入し、通し柱まで対応可能となった。さらに加工時間も短縮できる。スリット加工機は、同じく宮川工機のMMS-11。スリット在来工法の通し柱の胴差し部のみを金物工法で施工する物件と、すべて

プレセッターの施工を、既存の機械のドリルをつけかえることで、パナソニックのテクノストラクチャーに対応した。同社では、MMS-11でプレセッターのスリット加工をし、既存のMPS-25Mでテク

ノストラクチャーと柱のホソパイプの穴開け加工を行う。そのほかの金物工法や門型フレーム工法などを部分的に使う物件は、社員による手加工で対応していく。

また、金物対応については、既存の顧客のみならず、要望があれば



導入されたスリット加工機

ば地方からの依頼にも対応していく。

鶴澤浩典取締役は「当社の顧客は工務店や地場ビルダーが中心で、今後この方向性は変わらな

い。このため、加工能力を上げるとともに地域の要望があれば、金物工法にも随時対応していく。顧客の要望にこたえるだけでなく、商売の手助けになるような提案もしていきたい」と話しており、今後設備投資を考えている。